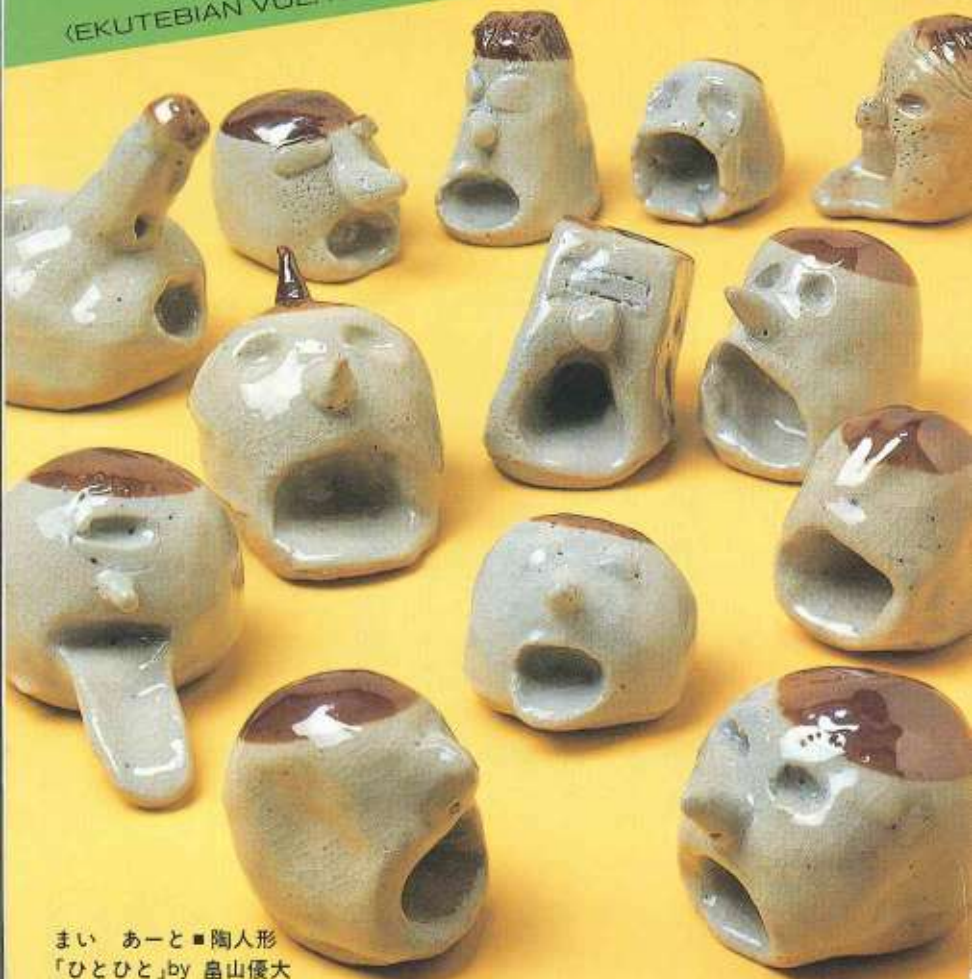
月刊
立川と語ろう　立川に生きよう
えくてびあん
3
〈EKUTEBIAN VOL.12 MARCH 1994 EKUTEBIAN〉
まい　あーと■陶人形
「ひとひと」by 畠山優大

宇良英昭の Filet de Nibe Grillé Sauce à la Grenadine

鮸の網焼き松の実添え ざくろ風味ソース

柴崎町2丁目にある「クワトロ」では、欧風のオリジナル料理を手頃な値段でもてなしてくれる。小粒ながら品格を感じさせるこの店で、ベテランの料理人たちの長として腕を振るっているのが、シェフの宇良英昭さんだ。沖縄は糸満市の漁師町に生まれ育ったからだろう、シーフードにも力が入る。そんな宇良さんが今回手がけたのは「鮸（にべ）」。切り身をまずオリーブ油に浸すのはイタリア風。網焼きにすると皮はこんがりと香ばしく、白身は臭みが取れ柔らかくなる。ざくろのシロップをカラメル状に煮詰め、ワインビネガーを加えて仕上げたソースは甘酸っぱく、さっぱりした白身に彩りを添える。型にはまらず素材を活かす。沖縄出身の、おおらかな宇良さんらしい取り合わせの妙である。

撮影：井上義治

TACHIKAWA どき

●立川養護学校・高等部

修学旅行。楽しかった北海道の思い出を食堂のシャッターに描く

●立川養護学校・中等部

時計塔の文字は深く、しっかりと刻まれていた。授業の開始に鐘が鳴る

えくてびあんレポート

私はここに生きていた。

新しい門出への期待といつも近くにいた先生や友だちと別れる寂しさ。両方が入り混じる、複雑な気持の中で卒業記念制作は出来上がってゆく。校舎のあちこちに飾られる作品の数々は、一人一人の想い出をずっと留めてくれることだろう。いつか大きくなって帰ってみても、そこにあの時の自分が立っている。私は確かにここにいて、ここを巣立った。

●西砂小学校

バレーボール全日本代表の泉川選手の手型には何人も触った跡が

●南富士見小学校

玄関を入ると、手作りの校内案内板が迎えてくれた

●若葉小学校

六角花瓶塔（左）と校庭に敷き詰められたタイルの道（右）

●柏小学校

お馴染み、柏小学校のブルースカーフ。校外学習には必ずして行く

●大山小学校

北川冬彦作詞、中田善直作曲の自慢の校歌を木彫りに

立川トピックス

立川で研かれて全国へ

1月23日、郵政省は新しい郵便ポストのデザインを検討するために、全国で4ヶ所に試作ポストを設置した。そのうちの2ヶ所がわが立川市内であった。立川駅北口前には角型タイプで今までの色をより目立つ赤に変えたもの、菊屋川口ビル前には従来と同じ色ながら丸みをおびたタイプがお目見えした。この新しいポストは、四基それぞれに形と色が異なり、設置期間は、わずか2ヶ月と短いが、市民の評判をもとに更なる改良が重ねられて、平成7年度には最終的なデザインが決定される予定。現在のポストと比較した立川市民の辛口の評価を新型ポストは待っている。

立川市水泳協会が三十周年

今年、創立30周年を迎えた立川市水泳協会（関一男会長）。その記念祝賀会が1月29日、リーセントパークホテルで催された。はじめに関会長（錦町）が挨拶に立ち、三十年間の道のりを振り返りながら「水に憧れて集った私たちは、今後も市民水泳普及のため、協力して頑張ろう」と呼びかけると、来賓の小林徳太郎日本水泳連盟副会長も「立川から世界の舞台に立つ選手が生まれるように」と激励の言葉を述べた。会員千余名を抱えるまでに成長し、マスターズなど全国レベルの大会にも数多く入賞している立水協。大きな節目を迎え、更なる活躍が期待される。

30周年記念式典・祝賀会　立川市水泳協会

真如苑だより

3月は弥生。「ヤヨイ」とは草木いやおい茂る、つまり草木のいよいよ生い茂る月ということです。暖かな春の光を感じて、虫たちも土の中からそろりそろりと出て来ることでしょう。そういえば、人々も新たな気持ちで、何かを始めたくなってくる季節です。

希望を胸いっぱいにふくらませる三月。真如苑では、皆さまのお越しをお待ちしております。

■日時　3月14日(月)　3時～5時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

草笛は天然の声

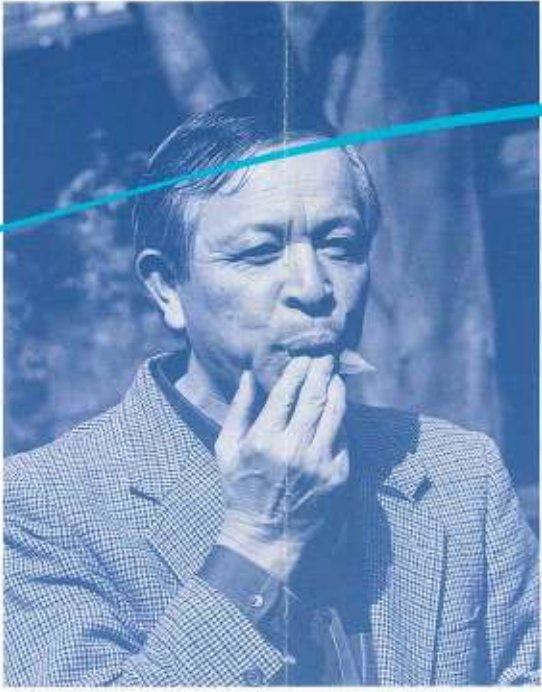
立川草笛友の会会長の豊泉利夫さん（砂川町）は外出するときはいつも、ポケットに湿らせた紙を入れたケースを持ち歩き、草笛に使えそうな草花を見つけるととっておく。それが、彼の宝物だ。
毎日、草笛と話し続ける。心から安らぐ天然の音は、自然の奥底に流れるものと通じているからか、深い安心を与えずにはいられない。

立川草笛友の会会長の豊泉利夫さん（砂川町）▼

湿らせた紙と共にこのようにポケットに忍ばせる▼

◀自宅近くの木からひょいと取って吹く

昨年、秋、昭和記念公園で▶草笛コンサートを開催した。左から飯野さん、伊川さん、佐治さん、大島さん、豊泉さん、本橋さん。

◀親子で参加の草笛教室。草笛演奏家、河津哲也さんの指導で

●草笛に魅了された人たち

「実際に音を出してみないと、どんな音が出るか分からないんですよ」一枚の葉っぱ片手に、嬉々として語るのは、「立川草笛友の会」会長の豊泉利夫さんだ。草笛との出会いは、一昨年の十一月。砂川公民館で自然教室「野の楽器・草笛」が開かれた。草笛の音色が、参加した人たちの耳からすっかり離れなくなってしまう。そこで、草笛の響きに魅了された人たちが中心となり、友の会は結成された。同会は、公民館で、毎月第二、第四土曜日に草笛演奏家の河津哲也さんより草笛の指導を受けている。現在、会員は三十代から八十代までの約十人。ほとんどの方が初めてで、最初はなかなか吹くことができない。そんな人でも、どうにか音が出るようになると、会に熱心に通い出す。なかには、幼い頃草笛に慣れ親しんだ人もいる。

●子供たちに囲まれて

「人によって音の出し方にも違いがあり、自分の口に合った葉があるんです」こうつぶやきながら豊泉さんは愛用のかしの葉で、切なくどこか懐かしい音色を奏でてくれる。始めた頃は、毎日三十分練習しないと気がすまなかった。吹けるようになると、今度は自分で楽しむだけでは飽き足らなくなった。それで時おり、子供の森（昭和記念公園）の草笛教室で演奏家の河津さんに従って、子供たちと一緒に吹くようになった。

普段、自然に触れることの少ない子供たちも、素朴な草笛の音色を楽しんでくれる。そんな無邪気な子供たちを見ていると、童心を取り戻した気持ちになる。

●「笛」に宿る命

草笛は、草の一部に息を集中的に吹きかけて、唇に接した部分の振動で音が出る。さらに息の強弱でメロディが付けられる。たった一枚の葉っぱで音楽を奏でる草笛。人それぞれ違う個性を持つように、葉も一枚一枚が様々な音色を響かせてくれる。

「草だけでなく、これでも吹けるんですよ」豊泉さんは、窓の片隅に飾ってある鉢植えのシクラメンをそっと唇に当てた。奏でられた曲は「シクラメンのかほり」。一片の花びらが、豊泉さんに命を託しているようだった。

ことわざ問答㊽

漢字一字挿入せよ

見切り□両

流行物は□り物

壮大な自然の中で

教育者・登山家　守屋竜男

雪の季節になると思い出すことがある。

それはもう三十年も前のことである。西多摩地方のある山間の中学校で教えたA君のことである。当時は今ほど高校進学率が高くなく、半数以上は中学校卒業後すぐに就職した。殆どは立川市や八王子市、それに昭島市の中小企業に就職したが、中には千代田区や中央区の都心に就職したものもいた。

A君は中央区の従業員5名程の和菓子屋に就職した。内気で口の重いA君がはたしてうまくやって行けるか心配しながら送り出した。しばらくは手紙をくれたりしていたが、やがて、音信も途絶えた。それから、2年も過ぎた年の暮れに、私の家に突然A君が訪ねて来た。久し振りの再会で話も弾んだ。口の重かった昔の面影はもう無く、立板に水のように流暢に近況を語ってくれた。しかし、時折ふっと寂しそうな、思い詰めたような表情がよぎるのが気になった。苦労しているんだねと言うと急に涙ぐんで黙ってしまった。しばらくして、職場での人間関係で苦労していることや盗難事件で疑いを掛けられていることを話し、店を辞めようと思っていることも語った。人生には色々なことがある。負けずに頑張ろうとお説教じみた説得を長々としたが、そんなことでは気が晴れないようだ。

そうだ、何もかも忘れて、久し振りに雲取山へ行ってみようかと言ったら、うんと頷いた。

押し入れを引っ掻き回し、冬山登山の装備を揃えた。かなりの重量になった。

翌朝、奥多摩湖の上流の山梨県の鴨沢登山口から登り始めた。天気予報は弱い前線が通過するので少し天候が崩れると言っていたが、まあたいしたことは無いだろうとたかをくくって登った。七ツ石山あたりから案の定、雲が厚くなりやがて雪が[illegible]出した。そのうちに、風も吹き出し1メートル先も見えない視界になってしまった。必死に道を[illegible]っていたら、A君とはぐれてしまった。大きな声でA君の名を呼びな[illegible]であった。急に胸騒ぎがして来た。

それこそ、慌てまくって30分も探しただろうか。吹雪の中から雪紛れのA君の姿がぼんやりと現れたときには、心底はっとした。ザイルで体を結び、町営奥多摩小屋に向かった。

小屋で熱いラーメンをすすり、やっと人心地がついた。吹雪がどうやら止んだらしい。シュラフに入って何時間は眠ったが、あまりにも寒くて目が覚めた。A君も目覚めているようなので、起き出すことにした。山頂までそんなに遠くないので行くことにする。行動を開始すると体が暖まって来て、寒さはそんなに気にならなくなった。しかし、頬につきささる風は寒さを通り越し痛く感じた。

風で雪が飛ばされたのかそんなに積もっていなかった。思ったより早く山頂に着いた。東の空が紫から赤に変わり、太陽が上り始めた。ご来光である。荘厳なシンフォニーの幕開きである。苦労して登って来たせいか、ことさら、感動的に見えた。壮大な大自然の光景を見ている内に、人間なんかちっぽけなものだと改めて感じた。

A君は何も言わずにじっと見ている。彼の頬に涙が一筋流れた。

下山は三条の湯経由にした。三条ダルミからの山腹の道には所処に吹溜りが出来ていててこずったが、予定の時間で三条の湯に着いた。そこからの長い林道歩きにはいささか閉口したが、何とか無事にバス停に着いた。

立川の駅で別れるときにA君は「俺は頑張る。絶対頑張るよ」と力強く言った。

大胆おいし〜。

朴訥にして、しかもナイーブ。まず大きめの皿にドカッとミルフィーユ本体を置いたところにシェフの心意気が伝わってくる。生クリームを惜し気もなくドワ〜ッとかけ、イチゴもドンドンとのつけたあたり度胸もある。とにかくボリュームがある。半分食べて結構お腹いっぱいになったあたりから"おいおいまだ半分あるよ"と、あと半分食べれるのは嬉しい悲鳴、至福の極み。虚飾を排し、食べる側の満足感にたつあたりにシェフの料理哲学、人生観が漂う一品である。

作品名：ミルフィーユ

大きいことはイイことだ!!

（古いねえ、このコピー、こんなのありましたね）

ルフナ茶 500円。

でもやっぱり大きくドカンとこられると"でけえじゃねえかこの〜"と嬉しくて思わずほ[illegible]けてみたりして・・・"お[illegible]"550円。

えくてびあんの輪

人がゐて、街があります。
あなたがゐて、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも えくてびあん！

ことわざ問答
流行物は廃り物
見切り千両

表紙は語る

まいあーと　陶人形「ひとひと」by 畠山優大

昨年11月、立川テプコギャラリーにおいて多摩地区の私立学校三校による『第5回合同陶芸展』が開かれた。聖パウロ学園高等学校（八王子）は必修科目の選択肢に陶芸のコースを設けており、この陶芸展にも初回から多くの作品を出展している。

畠山優大君は二年生になってこのコースを選んだ。茶碗や花器ではなく、人形を作った理由を訊ねると「まだろくろが上手に使えないから」と照れ笑い。それがかえって効を奏し、陶器の枠にとらわれない自由な雰囲気があふれる作品が出来上がった。一つ一つの土の塊が、人間の持つさまざまな表情をユーモラスに語り、眺めていると思わず頬がゆるんでしまう。畠山君もこの春からは三年生。父親の仕事の関係で海外生活の経験を持つ彼は、日本と海外との文化[illegible]みたいという。未来の国際人をめざす少年の手によって心を与えられた人形たち。顔を寄せあって、今日は一体何を話し合っているのだろうか。

東風

早春。冬日を思わせる天候がまだしばらくは続くのかも知れないだが、春の気配は日増しに濃くなっている。そもそも、2月4日の立春から、もう私たちは「春」の中に棲んでいるのだ。春は名のみであるが、それでも確実に春の分量はふくれて、桜が満開の頃になると「爛漫」の表現がとてもよく似合う◆立春の卵は立つという話が新聞を賑わせたことがあったという。昭和20年、敗戦の年の立春で、日本では日増しに敗色濃くなってきた頃。生卵が立とうが倒れようが問題の外であった。翌、21年にも上海で実験が行われて、米国の通信社も立ちあったことから、世界中にニュースが流れた。日本でも実験が行われて、タイプライターの上に立っている「立春の卵」が新聞に報じられたのだという◆昭和22年、はやくも中谷宇吉郎さんが、卵は立春でなくても立つと言い切って、その理論と共に、ご自分でも実験を繰り返して、幾度めかに成功する話が名著『立春の卵』に書かれている◆卵を立てるには細心の注意力と根気が必要なこと勿論だが、もう一つまず立たないケースがあると中谷さんは記している。立つと信じていない人。これである◆中谷さんの奥さまが卵を買いに行くと売ってもらえない。仕方がないから家に病人がいると方便を使ったそうだ。これも時代だろうか◆えくてびあん　大きくみえて　春立つ日　●

立川クイズ

立川では昭和17年に町制が施行されて、現在の町名が定着しました。錦町は、大正時代に行われた陸軍大演習での、錦の御旗行進にちなんで命名されました。曙町と羽衣町の命名の経緯は、当初、飛行場のある駅の北側を羽衣町として、今の羽衣町方面を立川の中でも東寄りなので曙町にしようとしていました。ところが、あることから予定の町名が入れ替わり、現在のように命名されたのです。さて、その原因とは？

①羽衣町の話しが進む間に飛行機事故が増えたため

②駅北側の住民が羽衣の町名に反対したため

③軍が飛行場の町名として軟弱だと反対したため

【2月号の答】❶

立川市の市税徴収率は98パーセント超と三多摩で一番です。立川通りはいつも混みあっていますが、比較するデータがなくはっきりしません。駐車違反の検挙率はかなり高いようですが秘密!?とか。

月刊えくてびあん　第116号
平成六年三月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル6F　〒190
電話　〇四二五(28)0082
FAX　〇四二五(28)1297
編集発行人　立井啓介
印刷所　㈱大廣社
（編集）池田隆男　片山敏久　小林康史　隅川理　名尾恵真　中村絵里　岩井正弘　町田健一　山田恵子
（写真）天野武男　板橋一明　井上義治　スタジオ269　皆川一巳　飯沼猛秀

飯沼延秀の

AT PARKS・・・・

心地よい風。木もれ日。子供たちの遊び声。今年は公園と話そう。

第3回　川越道緑地と古民家園

少年と犬が走って行った辺りから、林はオレンジ色の夕陽に包まれ始めた。春先に降った雪は、半日ほどの日差しに溶けて、うっすらと透き通っていた。

砂川9番の旧小林家居宅を移築した